緑の風 JREU TIMES

JR東労組（東日本旅客鉄道労働組合）
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階
電話　03-5315-0941
発行人 加藤誠　編集人 湯ノ目亜矢子
毎月１回20日発行／一部20円
（組合員の購読料は、組合費に含む）

2026年1月1日
第783号

ＪＲ東労組ホームページは
←こちらからアクセス
http://www.jreu.or.jp/

闘春

写真：盛岡地本　盛岡車両センター分会　斉藤 裕太郎さん

あらゆる仲間と固く連帯し、鉄道の安全とチームワークを守り抜き、健全なＪＲ東日本会社を職場からのたたかいでつくり出そう！

ＪＲ東労組　中央執行委員長　加藤　誠

組合員・ご家族・ＯＢの皆さん、新年おめでとうございます。日頃よりＪＲ東労組にご支援・ご協力を頂き、大変ありがとうございます。

12月8日に青森県東方沖で最大震度6強の地震が発生しました。被災した方々へお見舞い申し上げます。近年、地震だけでなく、自然災害は激甚化しています。ＪＲ東労組は「命」を第一に、「抵抗とヒューマニズム」の精神で、お互いが助け合い支え合う社会をめざしていきます。

昨年、ＪＲ羽越本線列車脱線事故の慰霊碑の前で、遺族の畠山友子様の「慰霊の言葉」を読み上げ、目頭が熱くなりました。

会社は「勇翔２０３４」のグループ理念から「安全」の文字を消しました。新幹線のトラブルをはじめとした輸送障害は後を絶たず、乗務員を監督指導する立場にある管理者・指導担当の安全度外視、ルール違反、運行優先体質ともいえる事象は目に余るものがあります。さらに、「融合と連携」といった多能化による労働密度の強化と行き過ぎた効率化や外注化によって、職場に継承すべき技術・技能もどんどんと崩壊してきています。

だからこそ、私たちがＪＲ東日本の安全文化と安全哲学を再確立するために、職場からたたかいをつくらなければ、乗客や仲間の命を守れません。「責任追求から原因究明へ」の安全哲学をもとに、鉄道の安全と技術、技能、知識の継承、並びに鉄道のチームワークを守り抜くために、会社に挑み、組織強化・拡大を成し遂げていく一年とします！

経団連は1月公表予定の「２０２６年版経営労働政策特別委員会報告」において、裁量労働制の拡充を中心に、労働時間法制の見直しを含めた改革の必要性をしっかりと書き込み、その実現に引き続き取り組んでいくとしています。このような動きに連合は「働き方改革に逆行する」と反発しています。具体案は明らかになっていませんが、残業の上限規制の見直しや、仕事の進め方と時間配分を個人で決められる「裁量労働制」の対象拡大が想定されます。

喜勢社長は会見の中で「鉄道事業に必要な人員は計算上約3万4千人必要なところ、4万人の社員がいるので、現時点では人手不足の認識はない」と発言しました。

しかし、職場からは「要員が足りない」といった悲痛な声が多数寄せられています。まさに、私たちの働き方が大きく転換する年となることが予測できることから「２０２６ＪＲ総連春闘」の大きな課題となっていきます。

高市首相は、11月7日の衆院予算委員会で「戦艦を使って武力の行使も伴うものであれば、これはどう考えても存立危機事態になり得るケースだ」と答弁しました。このことは、高市首相が中国による台湾への武力侵攻が起きた際、中国との戦争も辞さないと表明したことに他なりません。

この間私たちがつくりあげてきた、「平頂山平和研修」「南京・平和のための国際交流」、そして19校の小学校を中国の子どもたちにプレゼントしてきた「中国に小学校を建設する平和の架け橋」などの交流を壊すものであって、断じて許されることではありません。今後もより一層、平和・人権・民主主義をめざすたたかいが重要となってきます。

「被害者が加害者にされた！ＪＲ東日本武蔵小金井駅暴行事件」の第4回口頭弁論では、被告管理者がＡさんを反訴するなど、大変な状況となってきていますが、報告集会で堂々と挨拶するＡさんを見て成長を感じました。

そして、12月11日には、不当労働行為救済申立、不誠実団交についての第1回調査期日と、翌12日には損害賠償請求、労働組合及び組合員の団結権等の侵害についての第1回口頭弁論が開催されました。

被告管理者は答弁書で、①事実の隠蔽、被告管理者はＢさんに「ＪＲ東労組の思想は革命しかない」「そんなことに組合員を巻き込んでいる」と言っていない②組合への攻撃、団結権に対して、批判的な言説を述べるのも思想信条の自由、表現の自由として一定の範囲で認めて然るべき。などと主張していますが、不当労働行為をしておきながらこのような言い逃れは断じて許しません！

今後も、ＡさんとＢさん、大宮地本の仲間たちと固く連帯し、健全なＪＲ東日本会社を私たちからつくり出していきましょう！

今年も一年間、よろしくお願いします。

「安全・健康・ゆとり」を担保する働き方をめざして各単組と「連帯・共闘」を強化してたたかおう！

ＪＲ総連　執行委員長　山口　浩治

あけましておめでとうございます。

昨年、ＪＲ総連運動強化のためにご尽力いただいたＪＲ東労組組合員のみなさんに感謝申し上げます。

昨年、高市政権が発足しました。防衛費は計画より1年前倒しでＧＤＰ2％を達成し、さらに今年は「安保三文書」の改訂、「非核三原則」の見直し、「スパイ防止法」の制定と民衆の監視体制を強めながら、着々と戦争体制の整備が進められようとしています。アメリカからは更なる防衛費の増額が求められ、来年1月には所得税増税がめざされています。「台湾有事は存立危機事態」という答弁により悪化した日中関係は修復の目途が立ちません。このような現実で私たちは将来への安心を持ち続けることができるでしょうか。

一方、物価は上がり続け、実質賃金は10ヶ月連続でマイナスという現実、診療報酬の引き上げに伴う保険料率の引き上げ、介護保険の二割負担の対象者拡大など社会保障の改悪も議論されています。

ＪＲ東労組は昨年の２０２５ＪＲ総連春闘で過去最高の賃上げをかち取ったものの、私たちの要求には届いていません。今年の２０２６ＪＲ総連春闘では、「統一要求・統一闘争」というたたかいの陣形を維持し、とりわけＪＲ北海道労連、ＪＲ貨物労連の仲間と共に「連帯・共闘」を強化して、「賃金をたたかい取る」ために加盟単組の団結力を発揮していきましょう。

ＪＲ総連は、武蔵小金井駅暴行事件、大宮地本の不当労働行為とのたたかいを全面支援します。企業権力を振りかざした組合員への弾圧は許せるはずがありません。時代が逆戻りしたかのようなＪＲ東日本の官僚的体質を明らかにし、職場で奮闘する組合員の安心をかち取るために断固としてたたかい抜きましょう。

職場の要員不足は深刻さを増しています。経団連はさらなる生産性向上をめざし、裁量労働制の拡大を強く訴えています。過半数労働組合がある場合は、その事業場において労使で対象業務を指定できる仕組みづくりもめざしています。労働者自身が「もっと働きたい」と言うのであれば、その働き方を認めるべきという考えです。今後、評価制度の導入や、個人への課題付与などが行われる中、労働者自らが自分の働き度を高めて企業に貢献するという危険な考え方が出てくる可能性もあります。ＪＲ総連は、「安全・健康・ゆとり」を担保する働き方をめざして各単組と連携して政策提言をしていきます。

厳しい時代だからこそ大胆に組織拡大を実現し、雄々しく前進しましょう。